

子育て環境調査について

1. 調査結果について

(1) 調査結果の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 126

(2) 全国（21市区町村合計）の集計結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 161

2. 自治体職員による調査結果の活用例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 191

○自治体による読み取り事例—大都市部の自治体A市の場合—・・・・・・ 192

○自治体による読み取り事例—非大都市部の自治体B市の場合—・・・・・・ 200

3. 調査手法の限界と改善すべき点

(1) 健康診査の機会を利用した調査の限界・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 206

(2) 健康診査の機会を利用した調査を実施する場合に改善すべき点・・・・・・ 206

1. 調査結果について

(1) 調査結果の概要

<調査概要>

I. 調査目的

少子化が急速に進行する中で、共働き家庭のみならず専業主婦家庭をも対象とした地域の子育て支援機能の強化を図ることが重要な課題となっている。

本調査は、平成14年度厚生労働科学特別研究「次世代育成支援に向けた地方公共団体における行動計画のあり方について」の一環として、各市区町村が行動計画を策定するに際して必要となる子育て支援についての住民ニーズの把握を目的として実施したものである。

II. 調査方法・対象

1. 調査対象

調査対象は、調査の目的に基づいて下記の全国17都道府県の21市区町村で実施した。

秋田	横手市	岐阜	萩原町
岩手	宮古市	富山	婦中町
	石鳥谷町	滋賀	大津市
山形	最上町	大阪	枚方市
宮城	岩沼市		貝塚市
東京	世田谷区	兵庫	伊丹市
	三鷹市	香川	善通寺市
埼玉	新座市	熊本	八代市
新潟	新潟市		大津町
長野	茅野市	長崎	佐世保市
愛知	高浜市		

2. 調査方法

各市区町村が実施した1歳6ヶ月（大津市は1歳9ヶ月）又は3歳児の健康診査を受診した保護者を対象に、別添調査票による調査を実施した。調査票は無記名で、回答後、郵送により回収した。

3. 調査内容

- | | |
|-----------------|------------------------|
| ① 属性（2項） | ⑦子どもの遊び場（4項） |
| ② 家庭の状況（4項） | ⑧住宅事情（4項） |
| ③ 子育てに関する意識（4項） | ⑨行政サービス（3項） |
| ④ 仕事と育児の両立（5項） | ⑩住民参加（2項） |
| ⑤ 保育等のサービス（7項） | ⑪子育て支援の現状（11項） |
| ⑥ 地域社会の子育て（4項） | ⑫子育て支援に対する希望（自由回答）（1項） |

4. 調査実施期間

平成15年1月5日～3月31日まで

5. 有効回収率

配布9,508部 有効回答票2,384部 有効回答率25.1%

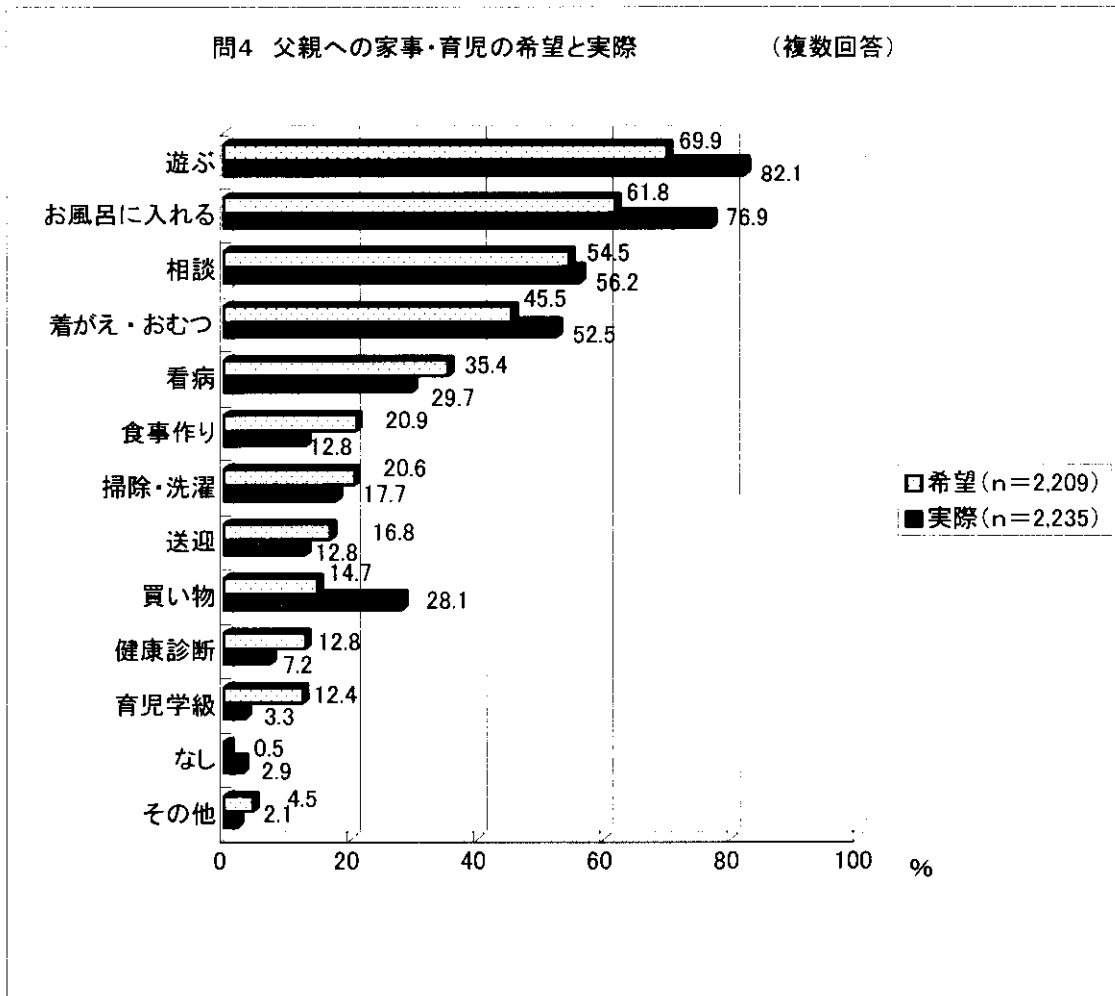
<調査結果>

1. 家庭の状況

1. 父親の家事・育児に関する母親の希望（希望）と父親が実際に行う家事・育児（実際）をみると、「遊ぶ」、「お風呂に入れる」といった育児は、希望が高い上に、実際に実行されている比率も希望以上となっている。他方、「食事作り」、「掃除・洗濯」といった家事や「看病」、「育児学級への参加」、「健康診断への参加」といった育児は、希望が高くなく、実際の比率も希望以下となっている。

※回答者は母親のみ

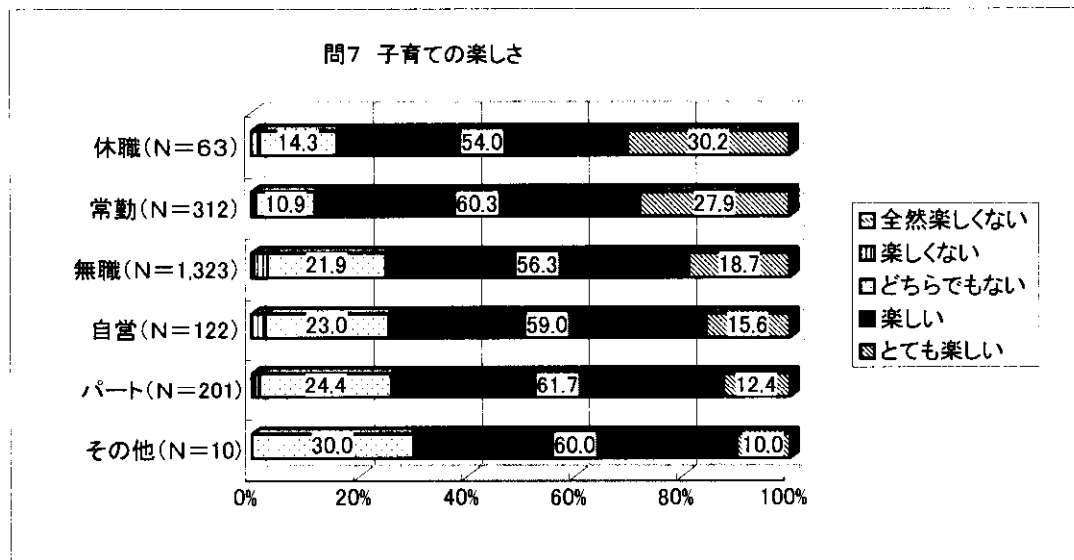
図表 1



2. 子育てに関する意識

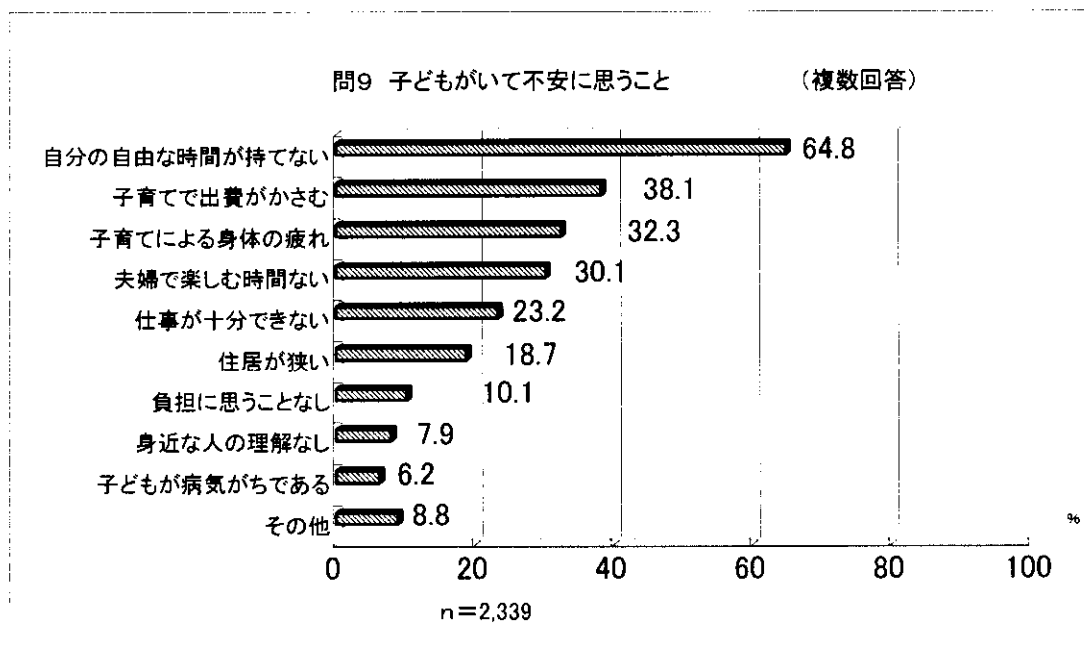
1. 子育てを「とても楽しい」、「楽しい」と答えた者の割合を母親の職業別にみると、常勤と休職中の者の方がパートの者よりも、育児を楽しんでいる比率が高い。

図表2



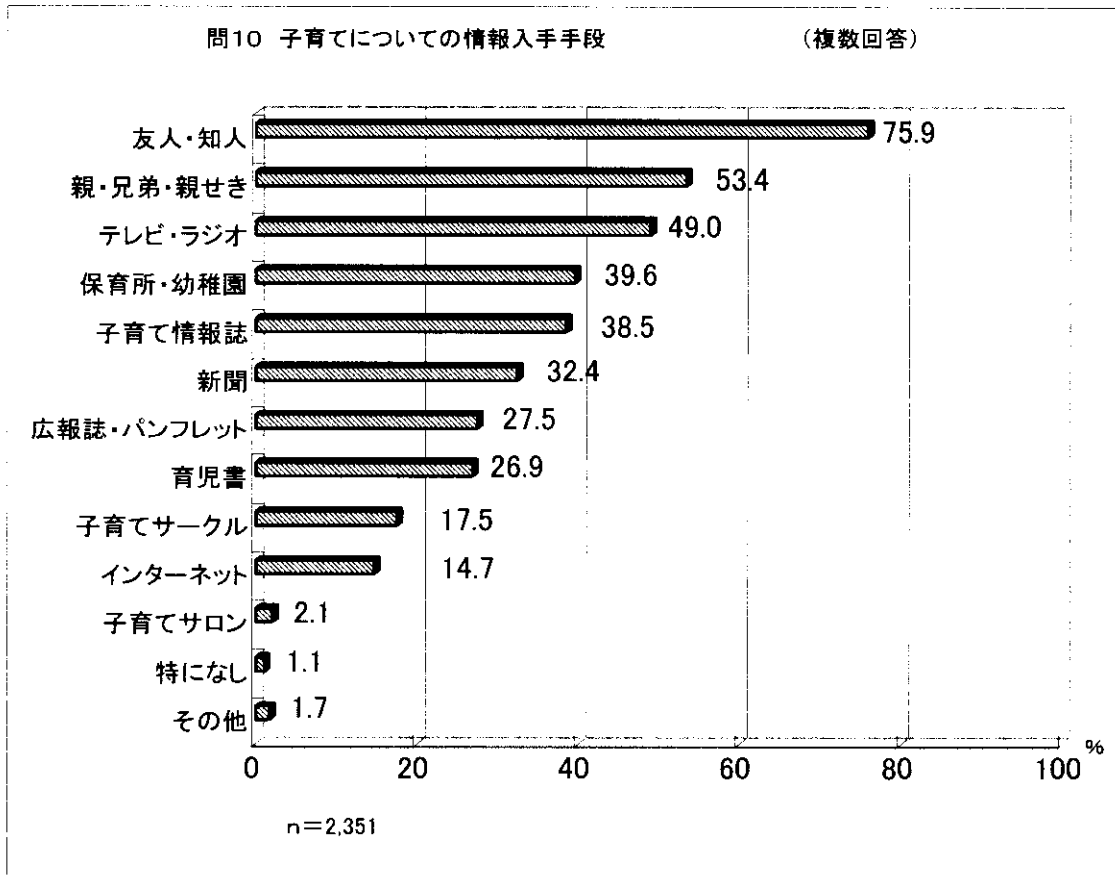
2. 子どもがいて不安に思うことについては、「自分の自由な時間が持てない」、「子育てで出費がかさむ」、「子育てによる身体の疲れが大きい」の順となっている。子育てによる精神的・経済的・身体的負担に不安を感じている。

図表3



3. 子育てについての情報入手は「友人・知人」や「親・兄弟・親せき」から行われていることが多く、口コミ情報に頼る傾向がある。

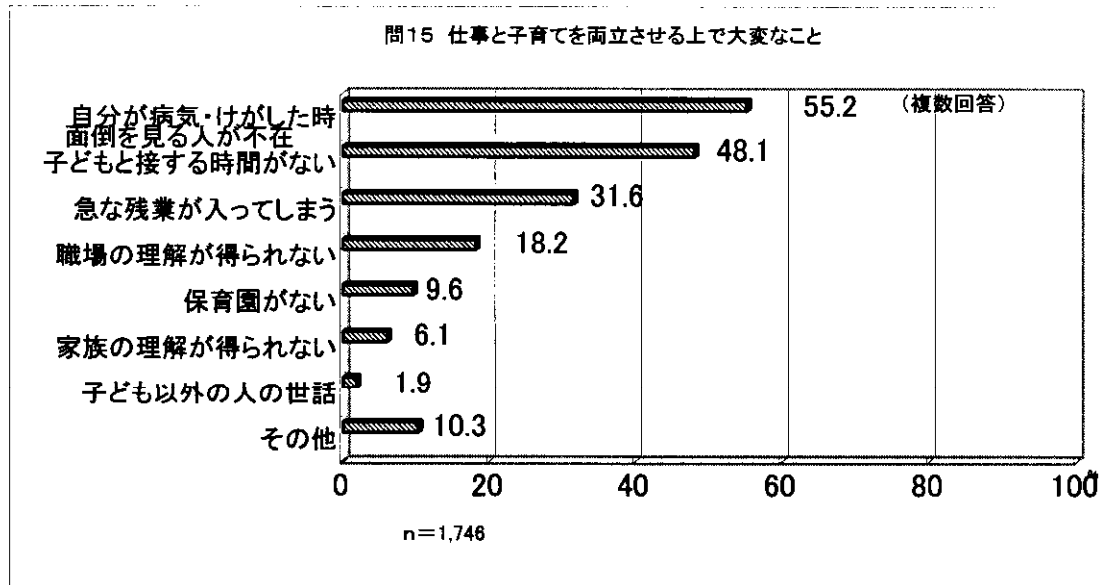
図表4



3. 仕事と育児の両立

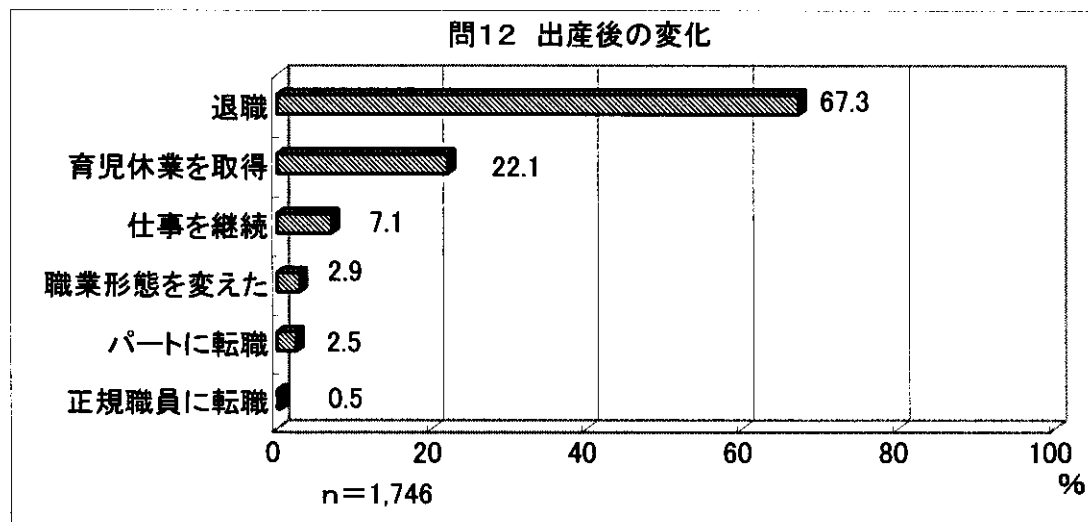
1. 仕事と育児を両立していく上で、「自分が病気、けがをした時や子どもが急に病気になった時に代わりに面倒を見る人がいない」、「子どもと接する時間がない」といったことが負担であると感じている。

図表5



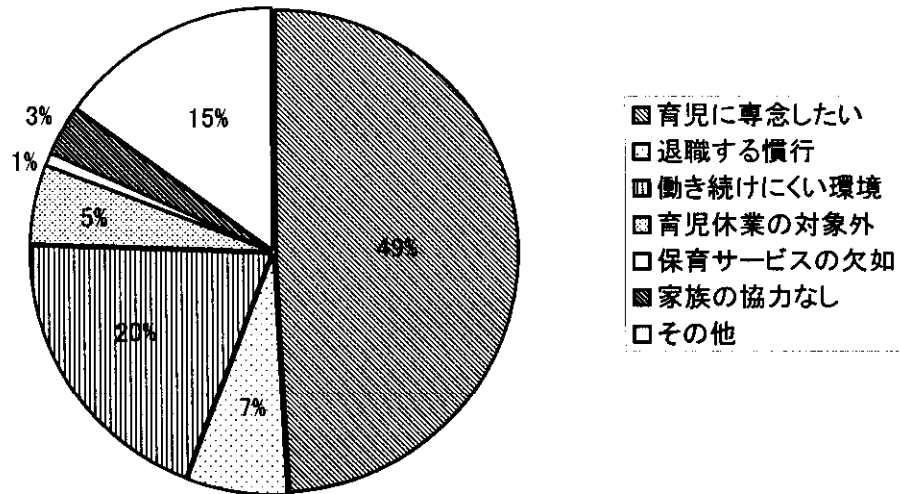
2. 出産後の変化として、出産を機に退職した人の割合が約7割となっている。

図表6



3. 転職・退職の理由は、「育児に専念したい」が約半数である一方、「働き続けにくい環境」、「職場の慣行」、「育児休業制度の対象外」など職場環境を理由とする者が約3割を占めている。

問13 転職・退職した理由

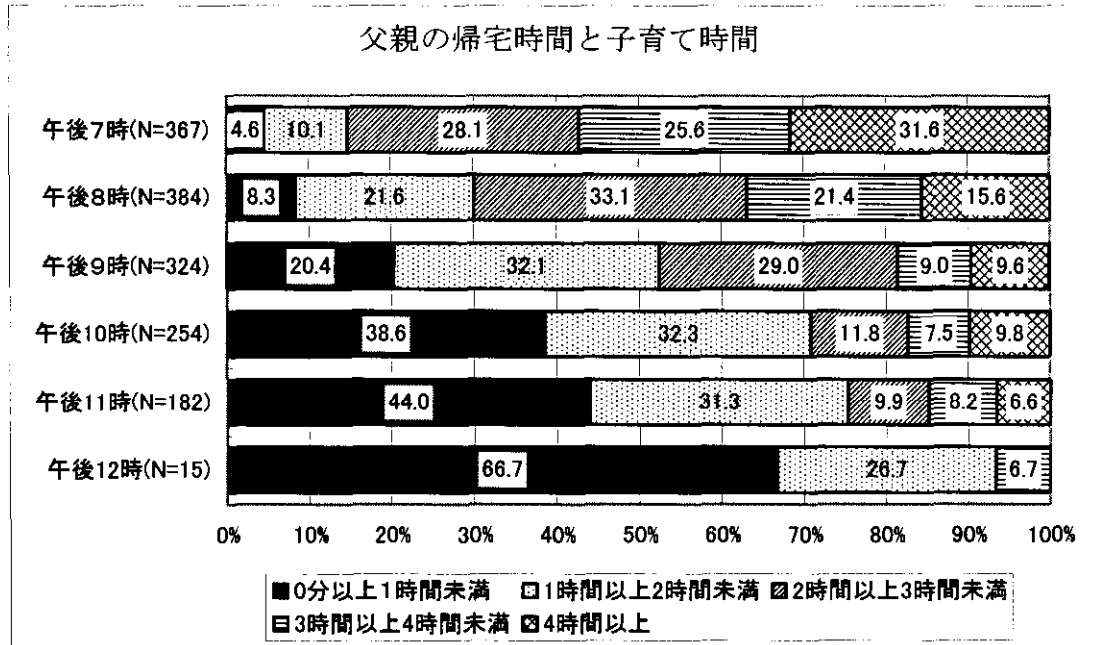


n=1,184

4. 父親の育児参加

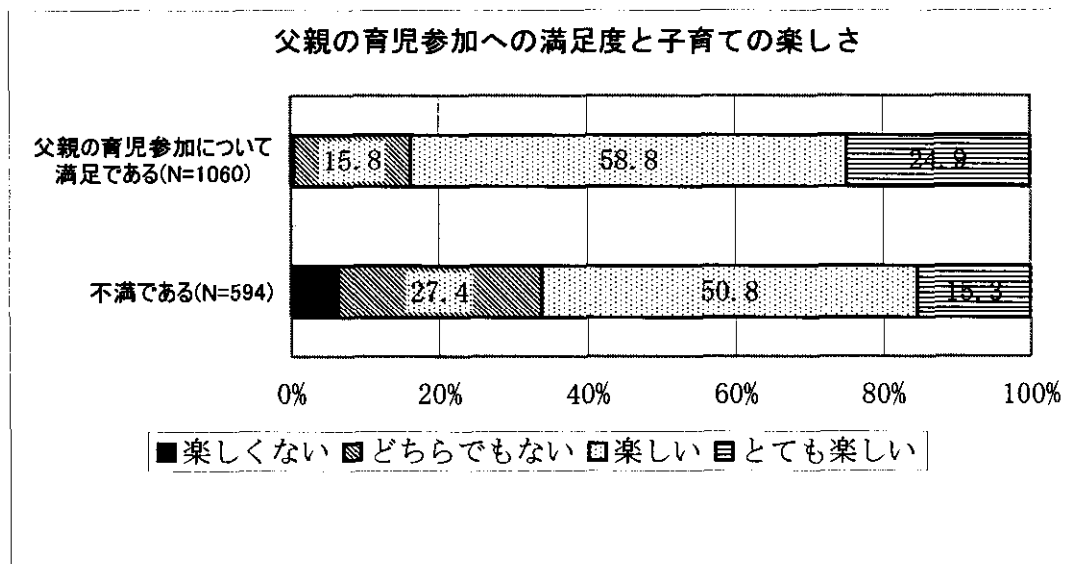
1. 父親は、帰宅時間が遅いほど、子育てに関わる時間を持っていない。

図表 8



2. 父親の育児参加に対する満足度が高いほど、母親が子育てを楽しんでいる割合が高い。

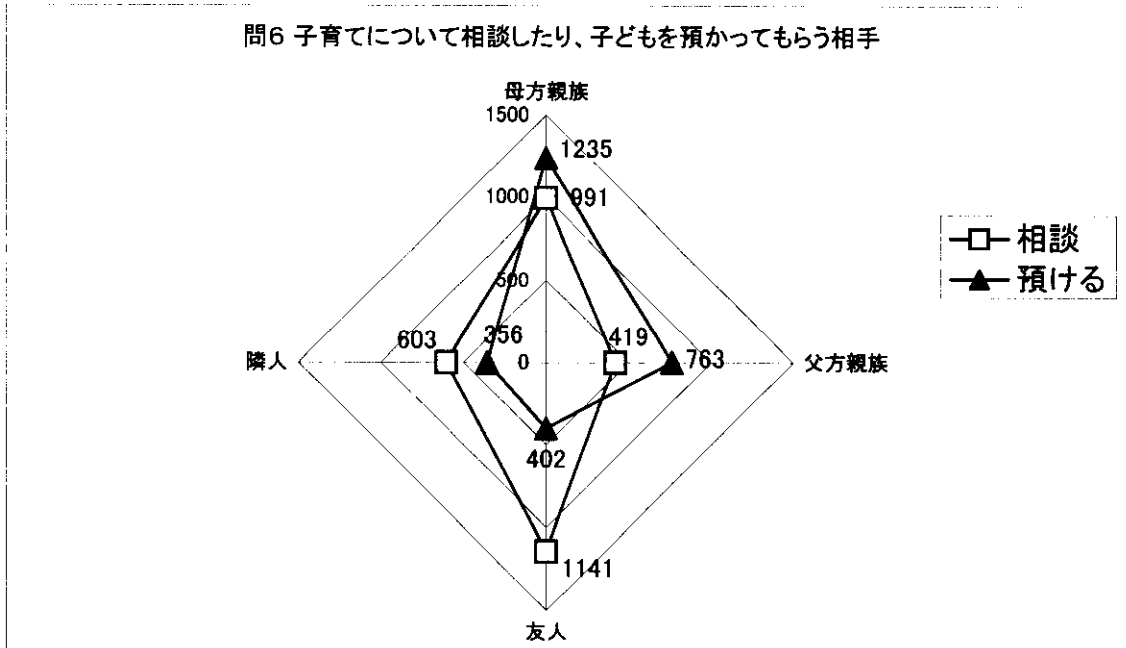
図表 9



5. 周囲の人々の子育て支援

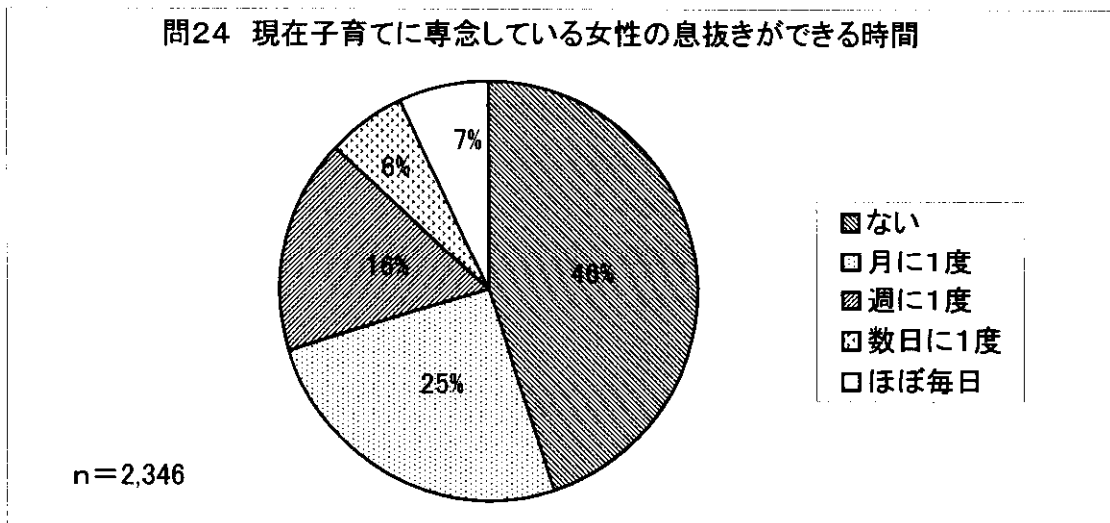
1. 子育てについて相談したり、子どもを預かってもらう相手として、母方親族を頼る傾向がある。友人を相談相手とする比率が高い。「相談は友人に、子どもを預けるのは親に」と、頼る相手を使い分ける傾向が伺える。

図表 10



2. 子育てに専念している女性が息抜きできる時間は、「ない」と「月に1度程度」を合わせると7割を超える。子どもと過ごす時間の長い専業主婦が育児・家事に追われている実態がうかがえる。

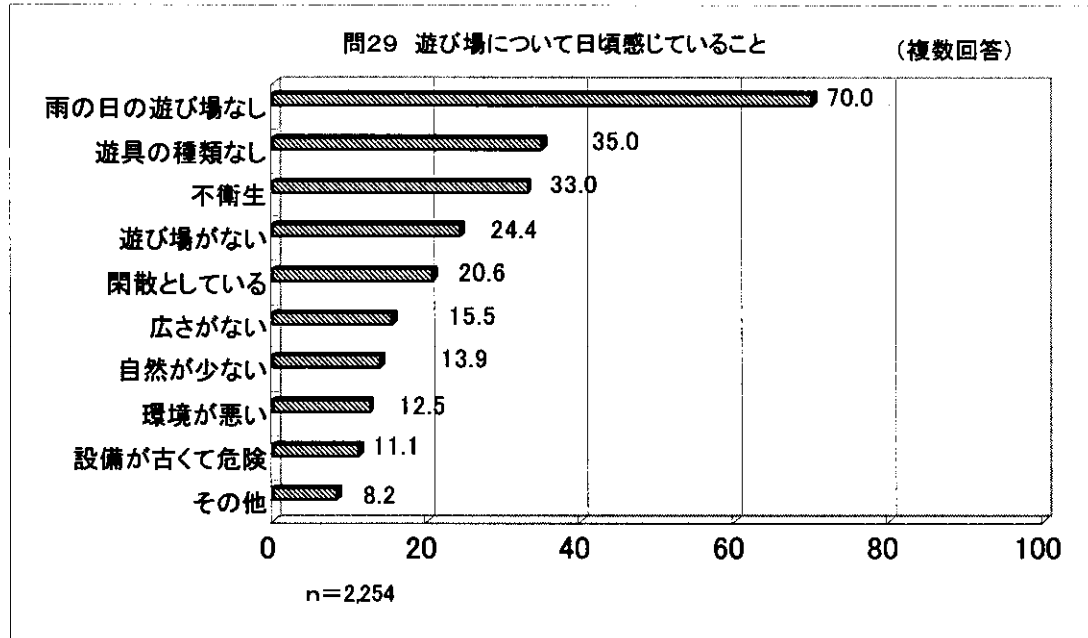
図表 11



6. 子どもの遊び場

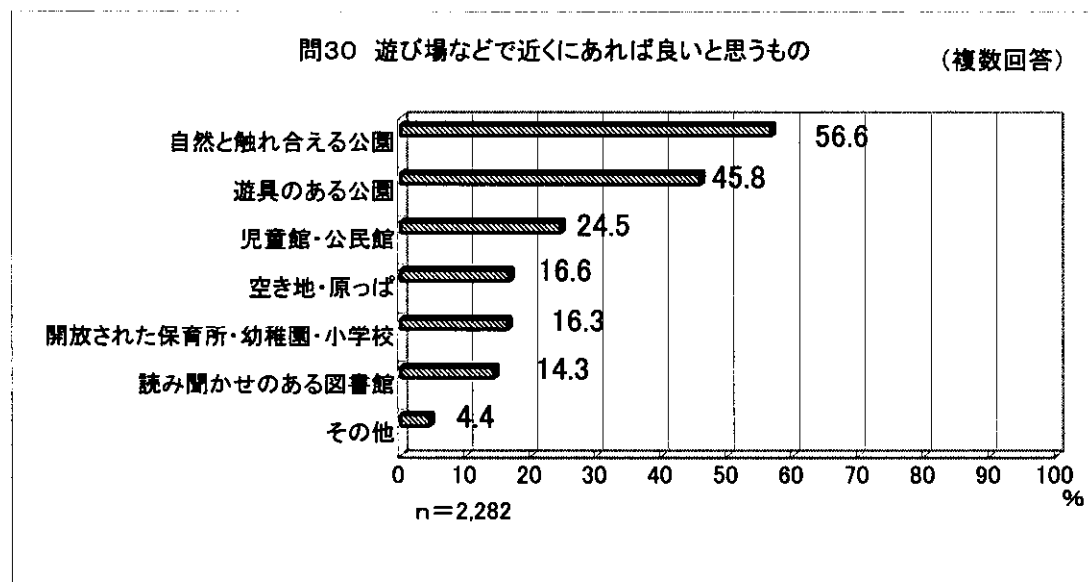
1. 遊び場について日頃感じていることとしては、「雨の日に遊べる場所がない」、「遊具などの種類が充実していない」、「不衛生である（砂場、トイレ、ごみ箱など）」と続いている。室内の遊び場が充実しておらず、また、公園の整備が不十分であるなど遊び場はあっても実際には利用しにくい実態がうかがえる。

図表 1 2



2. 遊び場として求められているものは、「自然と触れ合うことができる木や小川のある公園」や「遊具のある公園」「児童館・公民館（遊びを教えてくれるサークル）」などである。

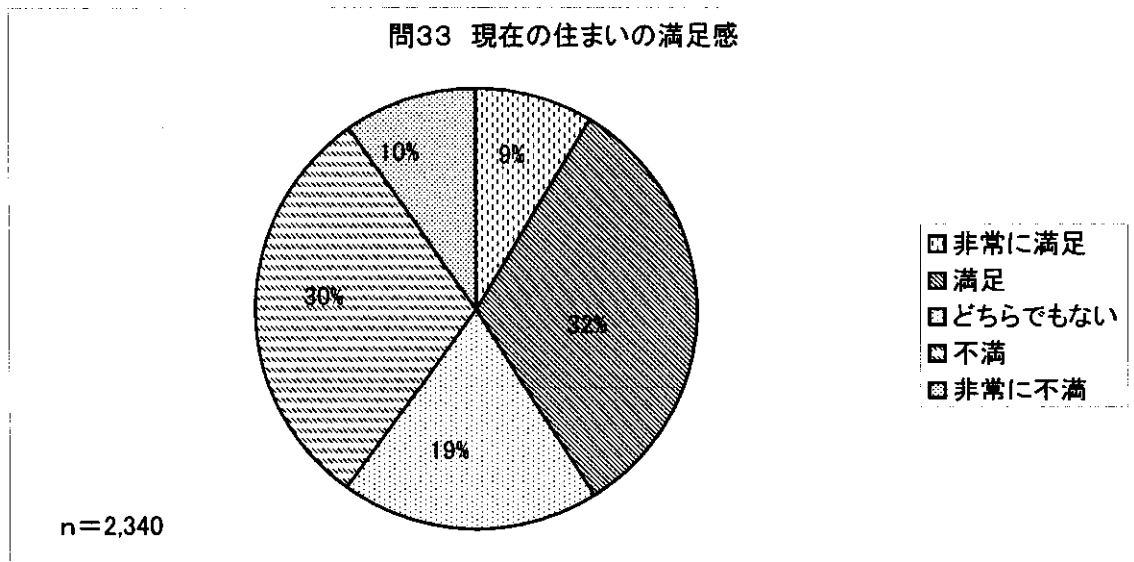
図表 1 3



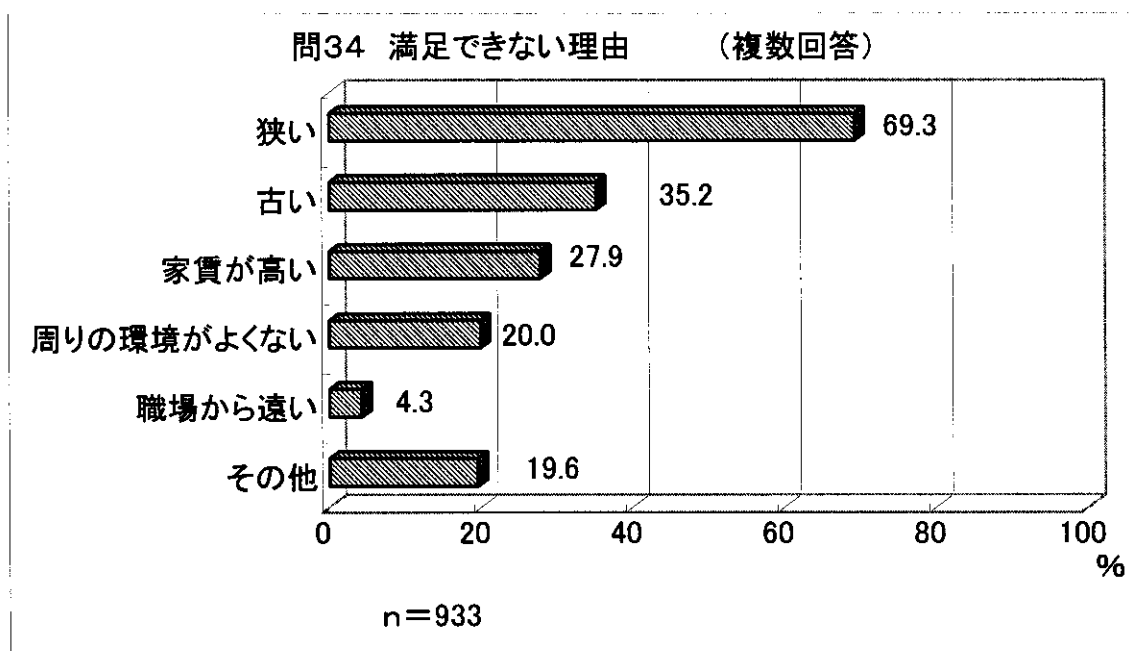
7. 住宅事情

1. 4割が現在の住まいには満足していない。満足できない理由としては、「狭い」、「古い」、「家賃が高い」などであった。

図表14



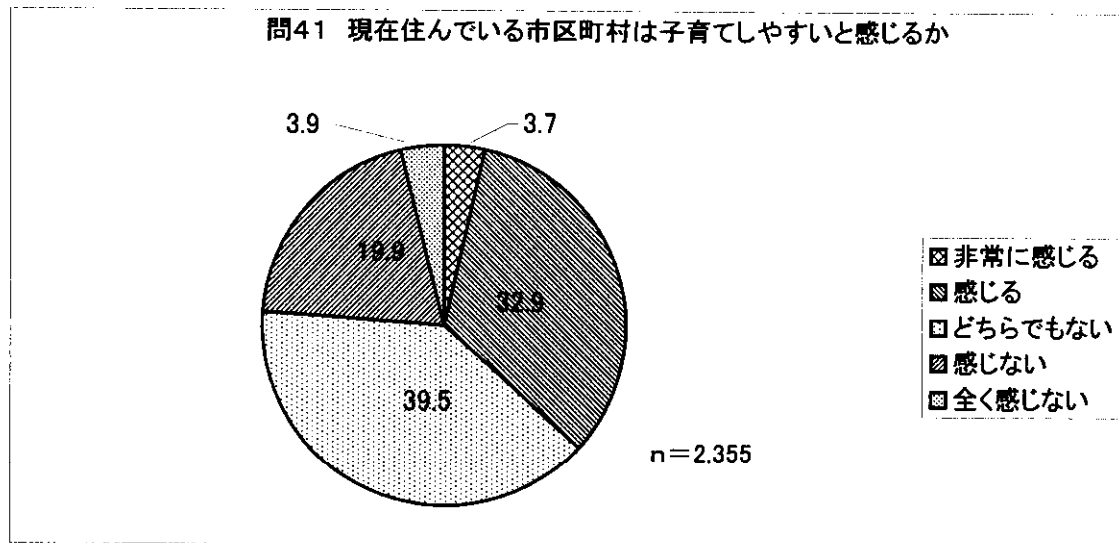
図表15



8. 地域の子育てしやすさ

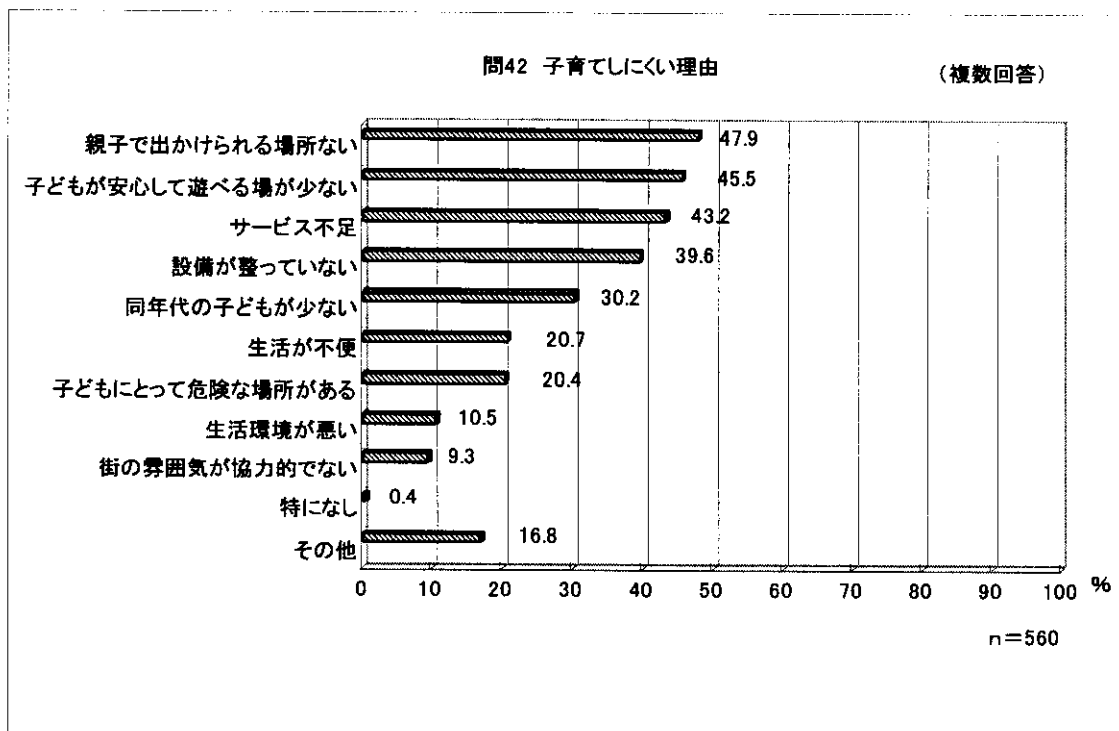
1. 現在住んでいる市区町村を子育てしやすいと感じている人は約4割弱おり、子育てしやすいと感じていない人は約2割強いる。

図表 16



2. 子育てしにくいと感じている人は、その理由として「親子で気軽に出かけられる場所がない」、「子どもが安心して遊べる場所が少ない」などを挙げている。親子や子ども同士で遊び、集うことのできる場所が求められているようだ。

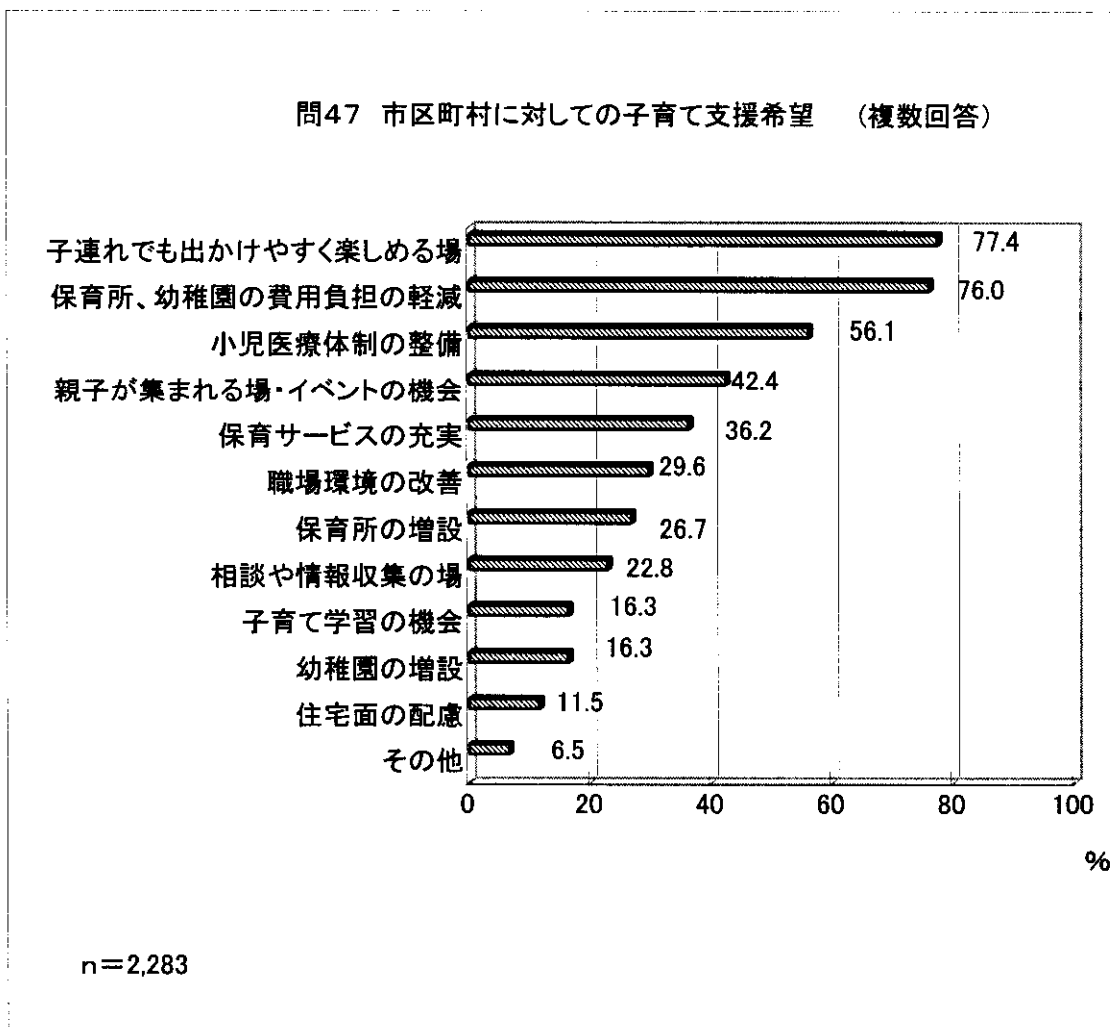
図表 17



9. 子育て支援の希望・要望

市町村に充実を求めるものとして、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やして欲しい」、「保育所や幼稚園にかかる費用負担を軽減してほしい」、「安心して小児医療にかかる体制を整備してほしい」が半数以上あった。

図表 18



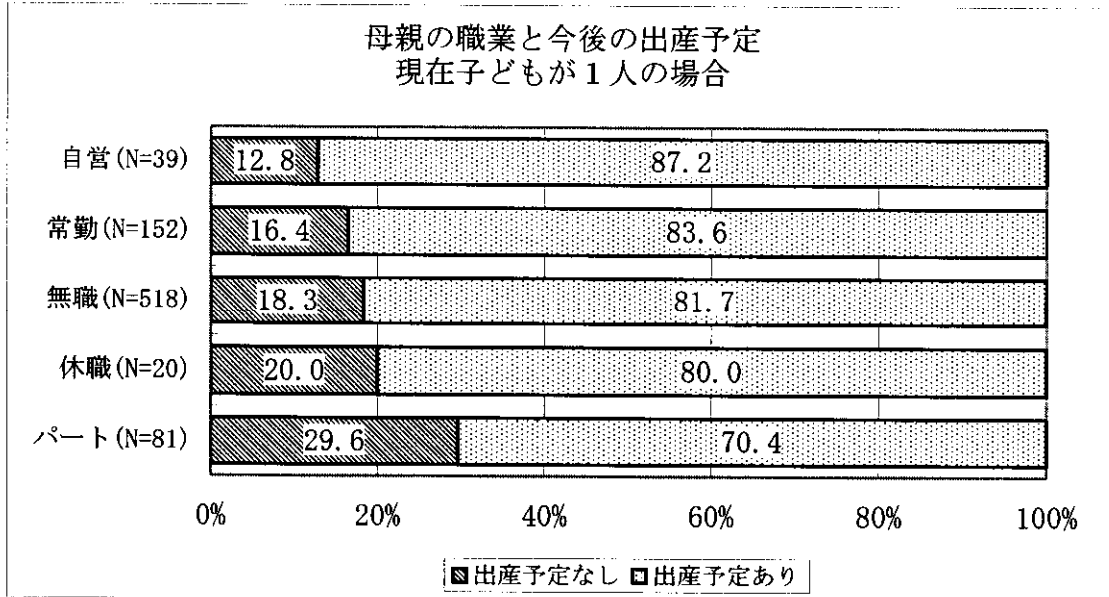
10. 出産予定

1. 母親の職業との関係

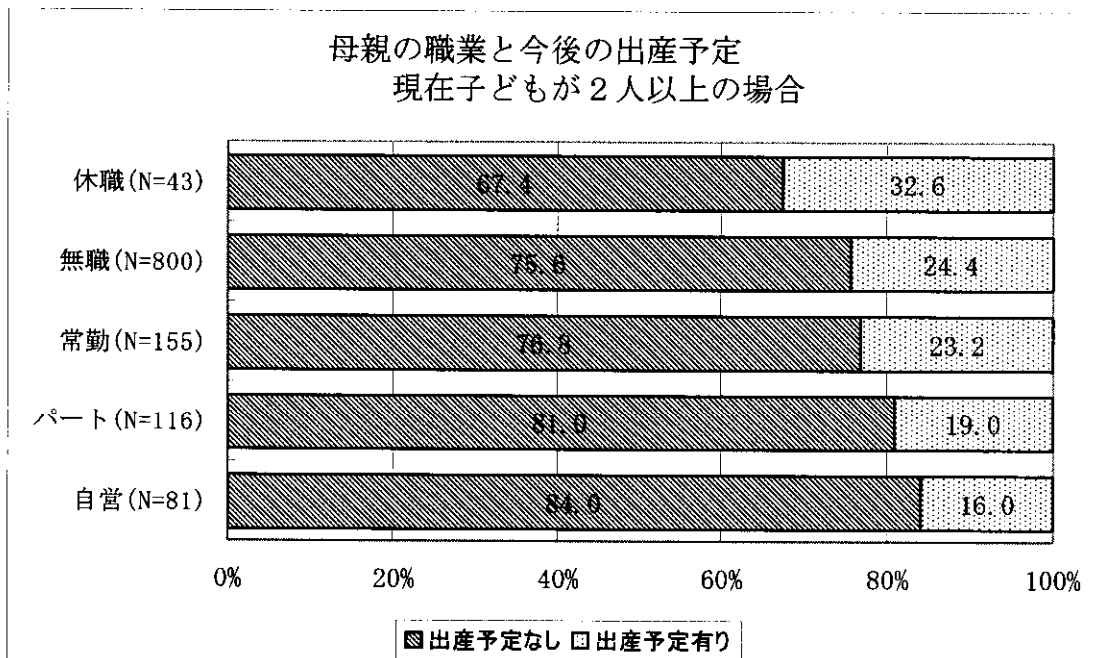
母親の働き方と今後の出産予定との関係を見ると、

- ・現在子どもが1人いる家族の場合、母親が「パート」の場合に「出産予定なし」の割合が高い。
- ・子どもが2人以上いる家族の場合、「出産予定あり」の割合は低くなるが、母親が「休職中」の家族では「出産予定あり」の割合が相対的に高い。

図表19



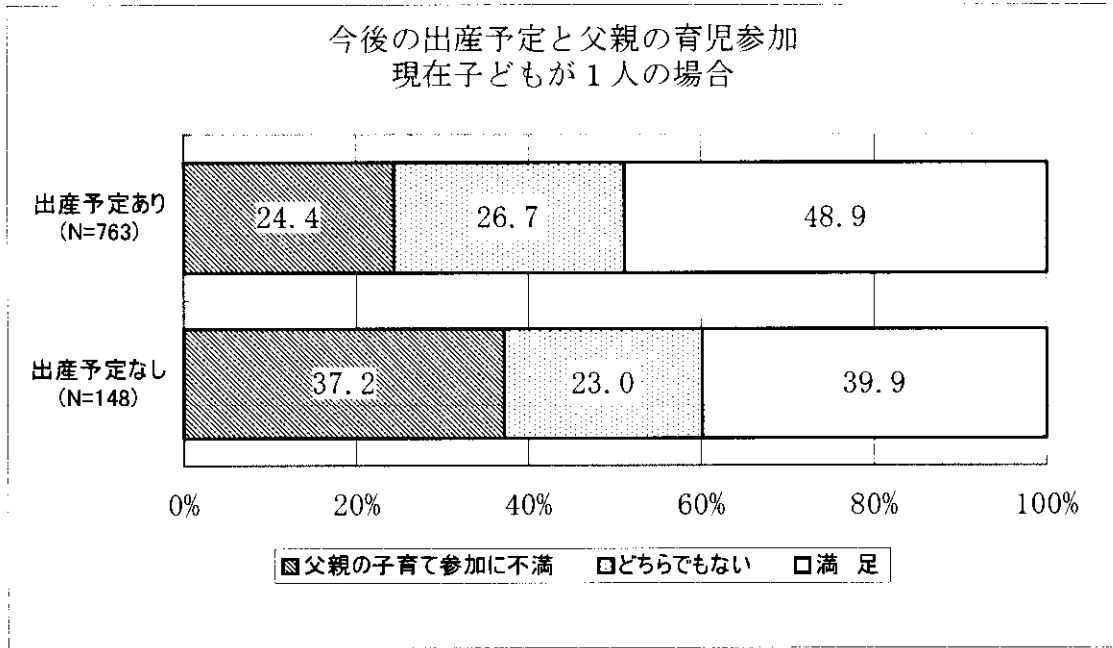
図表20



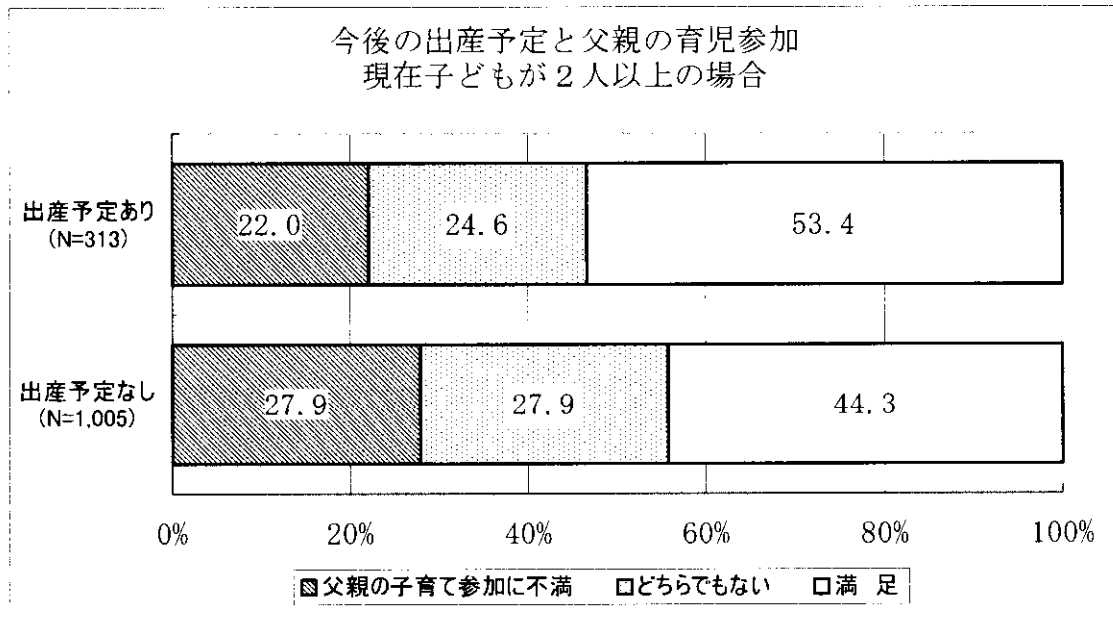
2. 父親との関係

今後の出産予定と父親の育児・家事参加に対する母親の満足度との関係を見ると、出産予定のある母親の方が出産予定のない母親より、満足している割合が高い。

図表 2 1



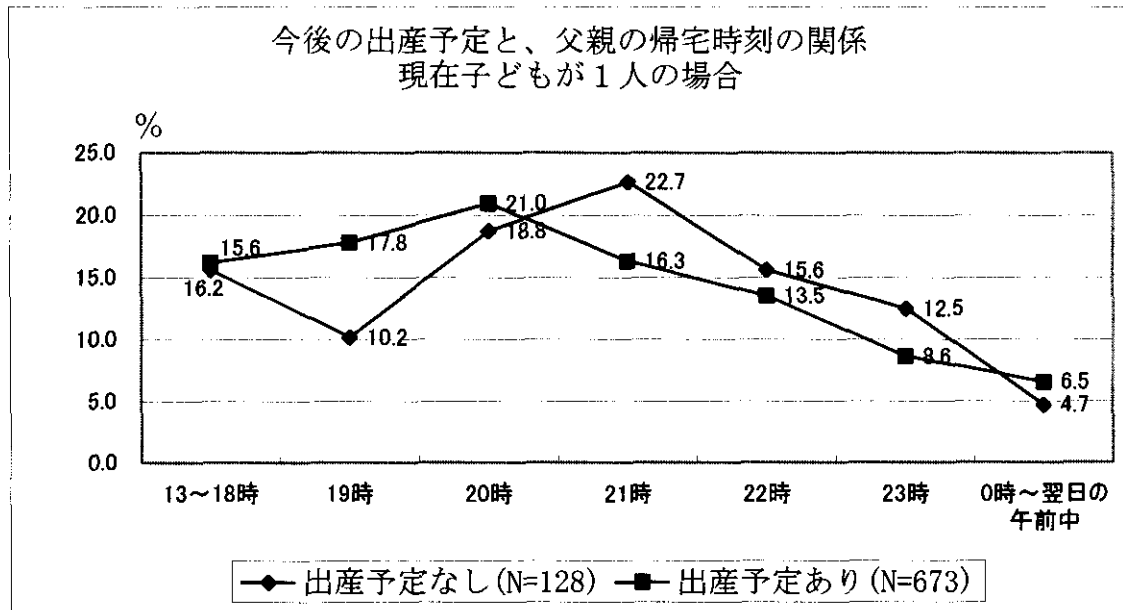
図表 2 2



3. 父親の帰宅時刻

今後の出産予定と父親の帰宅時刻との関係を見ると、「出産予定のある」家族の場合、「出産予定のない」家族と比べ、帰宅時刻が早い傾向が見られる。

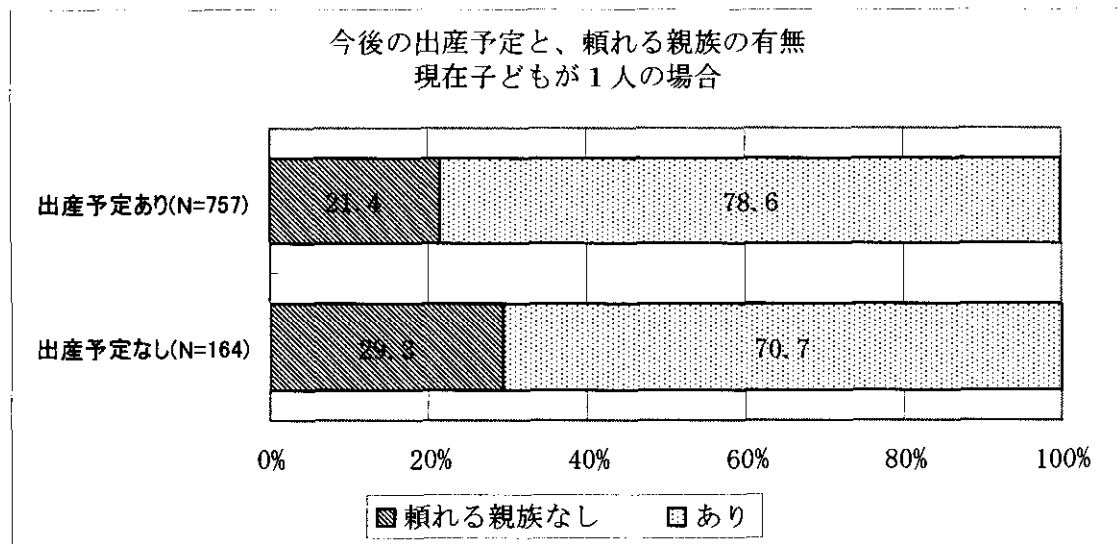
図表 2 3



4. 家族の協力

育児について頼れる親族の有無と出産予定の関係を見ると、現在の子ども数が1人の場合では、育児について何らかの依頼できる親族がいる場合に出産予定ありの者の割合が高い。

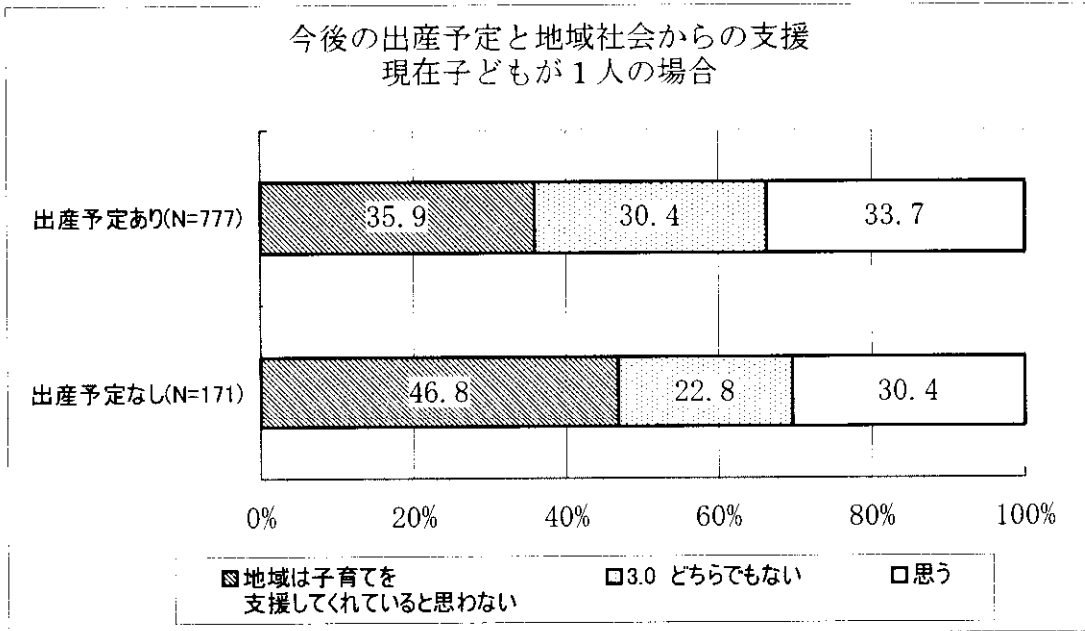
図表 2 4



5. 地域の子育て支援

地域の人々や地域社会が子育てを支援してくれていると感じている割合と出産予定の関係をみると、出産予定がある家族の方が出産予定がない家族よりも、支援を感じている割合が高い。

図表 2 5



図表 2 6

